



April 2009

Hasebe Dental Clinic Newsletter

歯科材料のお話

Vol.1 /No.7・©

前はメタルインレーについてお話をしました。今回は歯冠色のインレーについてお話します。

歯冠色のインレーについて

セラミックスとハイブリッドセラミックスのインレー

前はメタルインレーについてのお話をしましたが、今回はメタル(金属)を使用しないインレーについてのお話をしてゆきます。メタルを使用しないインレーとして現在セラミックスとハイブリッドセラミックスインレーが臨床で多く利用されています。これらのインレーはメタルインレーと異なり歯の色(歯冠色)と同じように作成することができるため、人目につきやすい部位に装着を希望する患者さんが最近多くなっています。下顎の小白歯や大白歯部への装着を希望する場合があります。これは食事をしたり会話をする場合など口を開いた時によく見える場所であるからと思います。

また、特に女性においては笑顔の写真を撮ってもらったときや自分で口の中を鏡で見たときに、金属が見えることを嫌う方が多く、下顎だけでなく上顎の白歯部への装着を希望する患者さんも多くいらっしゃいます。

写真1は30代女性の右下白歯部の術前状態を示しています。この患者さんは右下5番目のメタルインレーと6番目のメタルクラウンの色を好まず、歯の色に近いものに置き換えて欲しいとずっと思っていたようです。機能的には問題がなかったのですが、強い希望があったため他の治療のついでに再治療することになりました。写真2はすでに右下6番目のメタルクラウンを去年10月、11月号で紹介したメタルポンド冠(陶材焼付鑄造冠)に置き換え、そして右下5番目のメタルインレーを除去した後に撮影したものです。この後歯型を採りセラミックスインレーを作成し、写真3のようにこれを装着

しました。写真1と写真3を比較するとわかりやすく、写真3では右下白歯部のメタル色が消え、歯冠色が多くなっていることがわかってと思います。この女性は歯冠色のインレーやクラウンを装着した後、人前で食事をしたり、人と会話することが治療前と比べ嫌ではなくなったと言っています。このことを考えれば、治療をしてよかったと私は感じています。



写真1 メタルインレー



写真2 メタルインレーを除去し窩洞形成



写真3 セラミックスインレー装着

右 下5番目に装着したインレーはセラミックスインレーですが、これは本年2月号で紹介したロストワックス法(精密鑄造法)で作製したエンプレスという商品名のキャストブルセラミックスを使用しています。適正な窩洞形成の後、精密印象(歯型を採る)をして石膏模型を作製し、技工所で作製してもらいました。その後作製できたセラミックスインレーを歯に試適し適合を確認した後、接着性レジンセメントを用い歯の窩洞に接着させました。以前と比べ作製精度が向上しており、さらに接着性レジンセメントが改良されてきているため、セラミックスインレー装着後のトラブル(破折や脱離など)が明らかに減少しています。

この他の歯冠色のインレーとしてハイブリッドセラミックス(硬質レジン)製の物がありますが、セラミックスと同様に歯冠色と似た色に作製できるため、患者さんから装着を希望される場合が多くなっています。セラミックスと比べ治療費を安くできるメリットがあります。ただ細かい色の再現性(グラデーションやステインなど)や摩耗、耐水性の問題

からセラミックスと比べるとまだ劣ります。より改良されることを望みます。今回もS.K.さんに協力していただきました。

See you next month.



はせべ歯科

158-0091

世田谷区中町3-1-22-1F
TEL 03-5706-2500

www.hasebeshika.com
info@hasebeshika.com

発行者: 長谷部伸一 DDS, Ph.D